

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

外部評価機関: NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構

訪問調査日	平成20年 7月 31日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 20分

訪問先事業所名 (都道府県)	「いこいの里」花いちもんめ (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>新納 祐子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>本村 ヨシ子</u> ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p style="text-align: center;">関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675200127号		
法人名	株式会社 アサヒ産業		
事業所名	「いこいの里」花いちもんめ		
所在地	鹿児島県姶良郡加治木町木田4888-4 (電話) 0995-62-2983		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年8月30日

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤3人, 非常勤7人, 常勤換算8.25人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 84.25歳	最低	80歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加治木温泉病院 同病院歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療・福祉など関連施設の一角にあるホームである。職員寮である四階建ての一階部分を改装し、ゆったりとした家庭的な雰囲気のつくりとなっている。入居者に馴染みのある龍門の滝が、ホームの庭からも眺められるのどかな環境の中にある。職員は、その人らしい生活を支援するため、心のわずかな変化も見逃さないよう思い・意向の把握に努めている。全職員が入居者全員を把握するため、介護記録を工夫・活用している。家族や民生委員、行政等との連携のもと、地域住民との交流は積極的にされており、地域に根ざしたホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、理念や介護計画、災害対策など職員で協議しながら改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目を常時学び評価の意義を理解している。自己評価は、全職員で行い確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの現況や取り組み、地域との交流、災害対策などについて協議している。苦情委員会も設置しており、職員などと協議、情報の共有を図りながら運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や家族会、運営推進会議などで、何でも言える雰囲気づくりに配慮している。苦情委員会も設置しており、職員などと協議、情報の共有を図りながら運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、民生委員と連携し地域の独居の高齢者の相談や、老人会、クラブ活動などに参加している。保育園との交流や関連施設の夏祭り参加など積極的に地域住民と交流している。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村 朋美 / 調査員 新納祐子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然と環境を大切に地域住民と共に過ごしていくことを目指した地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に、理念を唱和し共有を図っている。ケアの中で気づきがあった場合、理念をもとに話をするなど日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、民生委員と連携した地域の独居高齢者の訪問受け入れや、老人会、クラブ活動などに参加している。また、保育園との交流や関連施設の夏祭り参加など積極的に地域住民と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を日常的に検討し理解している。自己評価は、全職員で行い確認している。評価を活かし、具体的なサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現況や取り組み、地域との交流、災害対策などについて協議している。出された意見は質の向上に活かしている。		

「いこいの里」花いちもんめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、ホームの課題など、連絡、相談、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に、お知らせを発行して、健康状態や日常の様子など報告している。家族の訪問時や電話など個々に応じ近況など報告している。金銭管理は家族の訪問のつど報告している。職員の異動などは、運営推進会議や家族会、家族の訪問時に随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会・運営推進会議などで、家族に意見がないか伺い、何でも言える雰囲気づくりに配慮している。出された意見は、苦情委員会で協議し、情報の共有を図り運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は極力ないよう努めている。代わる場合は、入居者への紹介の工夫や十分な引継ぎ・職員同士のサポート・連携を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、介護支援専門員や看護師による感染症対策や実技指導で緊急時対応などを行っている。外部研修も職員は交替で参加し報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会等の研修や交流会に参加している。町内のグループホーム等とは、随時、情報交換や相談・連携を図り、交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の本人との面談やホーム見学などを通し、本人の状況や情報を得ることに努めている。入居者同士の会話、職員の十分な配慮、家族との相談連携などを通して、馴染みの関係作りに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ホームの理念をもとに尊厳を尊重しながら、生活の中で、調理や園芸方法など入居者から学び、お互いに支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の態度や行動、表情などから、職員は常に「何をしたいのか」を意識して把握に努めている。入居者に応じた言葉かけの工夫や家族からの情報など、本人本位の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員などの意見を反映させた介護計画を作成している。全職員が一人ひとりの状況把握・情報の共有に努め、話し合いを行い、計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録や毎日のミーティングにより、実践・対応・結果・評価がされている。介護計画は期間に応じた見直しがされている。状況の変化に応じ、随時の見直しもされている。		

「いこいの里」花いちもんめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの環境や機能を活かし、民生委員と連携を図った独居の高齢者の訪問受け入れなどしている。また、入居者、家族の意向や状況に応じて、通院支援、墓参り、寺訪問など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医での診療を支援している。家族、医療機関、管理者・職員は通院時や健康状況などの情報を共有し、相談・協力・連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて、本人、家族や医療機関と話し合い方針の共有を図っている。重度化や終末期に向けたホームとしての対応については、看れるまでは、ホームで対応したいという思いはあるが、検討段階である。	○	重度化や終末期に向けた指針づくりが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり違う個性があり、日頃から入居者に応じた対応を心がけている。トイレなどさりげない誘導や言葉かけを行い、誇りやプライバシーを損ねない支援をしている。また、個人情報の取り扱いについても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活の流れはあるが、入居者の意向や状況に応じて、それぞれのペースで過ごせるよう支援している。		

「いこいの里」花いちもんめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を大切にしている。本人の意向や状況に応じて、好みの食材の購入や下ごしらえ、味見、片付けなど職員と共に行っている。食事も職員と一緒に、食事を楽しむ支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間にゆっくりと入浴ができる。仲良し同士での入浴、温泉（家族湯活用）利用など、その時の意向や状況に応じた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花、習字、調理、皿拭き、踊り、体操、ドライブ、散歩、買い物、創作活動など入居者一人ひとりの役割や、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物・お地蔵様参り・関連施設内の売店・老人クラブへの参加・ドライブ・温泉など入居者の意向や状況に応じて外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	目配りをするすることで、日中は、鍵をかけないケアに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難・通報訓練など行っており、関連施設内や上階の職員寮、地域住民との協力体制が整っている。備蓄なども準備がされている。タンス止めなど利用し地震時の被害を最小限にとどめる工夫もされている。		

「いこいの里」花いちもんめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握をして必要量の摂取を支援している。栄養についての助言も得て、繊維の多いものや嗜好物を取り入れ、カロリーや栄養バランスのよい食事づくりを心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的でゆったりとした共用空間である。音や光に配慮し、居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	9部屋それぞれの個性ある造りである。神棚やテーブル・椅子・家族の写真、ぬいぐるみなどが持ち込まれている。状況に合わせ滑り止めなど、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。